

資料館活動の10年

<http://www.kyoto-arc.or.jp>

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

京都市考古資料館がオープンしたのは、1979年11月28日のことで、1990年3月現在すでに10年を経過したことになる。ここでは資料館がこれまでにこなしてきた主な事業活動と今後の課題について述べる。

資料館の主な事業活動

資料館の仕事には、どんなものがあるのか、一般に知られていないことが多い。そこで資料館の主な活動について以下に列挙する。

(1) 特別展、(2) 小・中学生夏期教室、(3) 文化財講座、(4) 印刷物の発行、(5) 遺物貸出。

(1) の特別展は、原則として毎年1回開催している。各テーマは、次の通りである。

第1回地下鉄丸線の発掘調査展

第2回北野廃寺展

第3回京都市域の弥生土器展

第4回鳥羽離宮跡展

第5回平安宮跡展

第6回京都市域の群集墳展

第7回平安宮ぶらくでん豊楽殿跡展

第8回桃山時代の京都・考古展

(2) の夏期教室は、1980年8月から毎年1回開催し、1990年の夏には、第11回目を迎える予定である。

(3) の文化財講座は、1986年5月から始め、1990年3月現在35回開催した。第26回(1989. 3)までの講座では、市内の主な遺跡

や遺物の調査・研究成果を主体にした。

埋蔵文化財調査の関係者が、それぞれ講師を担当し、ホットな文化財情報や研究成果を発表し、参加者の好評をえて毎回定員をオーバーしている。

平成元年度(第27回～第35回)は、上記の講座の他に「瓦」をテーマにとりあげ、朝鮮の瓦、飛鳥時代の京都の瓦、…桃山時代以降の京都の瓦について、時代順に研究の成果を発表している。このシリーズは出席者に非常に好評で、平成

二年度は、「瓦」シリーズのあとをうけ、「遺跡から見た京都の歴史—〇〇時代の京都—」と題し、先土器・縄文時代から桃山時代以降の京都を考察する予定である。

(4) の印刷物の発行については、特別展では第6回以降展示図録(『京都市内の群集墳』、『平安宮豊楽殿』、『桃山時代の京都・考古展』)を発行した。このほか、文化財講座や夏期教室では、資料・テキストを作製している。

(5) の遺物貸出では、貸出取扱要綱第3条により、「埋蔵文化財に



豊楽殿跡で出土したしび鴉尾

鳳凰の頭部 特別展図録『平安宮豊楽殿』1980より転載



北西から見た豊楽殿推定復元図 梶川敏夫画

ついでに普及・啓発ならびに学術研究に資し、かつ良好な状態で管理・展示されると認められる場合に貸出している。京都市域の埋蔵文化財が、日本の各地で有意義に一般に公開されている。主な貸出先を平成元年度に限って、以下に掲げておく。

和泉市久保惣記念美術館、大阪市立東洋陶磁美術館、岡山県備前陶芸美術館、亀岡市文化資料館、京都国立博物館、京都文化博物館、京都府埋蔵文化財調査研究センター、京都府立山城郷土資料館、齋宮歴史博物館、土岐市美濃陶磁歴史館、広島県立歴史博物館、福島県立博物館、向日市文化資料館、山口市歴史民俗資料館

今後の課題

資料館のはたす今後の役割について考えてみよう。京都市考古資料館条例第1条によれば、埋蔵文化財の調査ならびに出土品その他

の考古学的資料の整理・研究・収蔵および展示を行なうための施設と定めている。だが、要は実質的なサービスを来館者のために如何に提供するにかかわるものである。

来館者が最も望み、欲するところのものを備えておくことも必要である。その一つに、情報の収集・提供がある。一般に、来館者は、目が肥えていて土器や石器、瓦だけを単に並べるだけでは、繰り返し来館する魅力に欠けるであろう。

このような状況を打開するため、当館では、ささやかではあるが情報コーナーを設け、活用していたいている。京都市域の発掘調査の状況がわかるように、関係資料をとりそろえている。また、京都府下の博物館、文化施設を紹介したパンフレットやリーフレットもとりそろえ、利用いただいている。だが、当館が市民からより一層広

く、継続して受け入れられるためには、発想の転換が必要である。

ひとつの考えは、当館を情報の発信基地にすることである。そのためには、来館者が必要とする、より充実した情報の収集が必要である。また、映像による情報提供も不可欠である。これこそ新たな考古ファンをよびこむ仕掛けになるだろう。

平成2年1月30日付けの日経新聞（夕刊）によると、文部省の教育審議会は、この日生涯学習の基盤整備についての答申を文部大臣に提出している。「生涯学習は人々が自発的意志に基づいて行なうことを基本とする」との観点に立ち、「人々の生涯学習を支援する施設を検討した」とある。当館が情報の発信基地としての機能を求められているのは、時代の要請である。当館にある図書類も閲覧できるように検討している。